

みんなで繋ぐ！～ナゴヤソナエルアートキャンペーン～に参加しよう！

キャンペーン期間：2021 年 10 月 28 日（木）10:00～11 月 14 日（日）23:59



12 個のお題の中から、ご自宅やご自宅周辺にある防災の写真を撮って「# 備えるを楽しもう」をつけて、画像を Twitter に投稿しよう！投稿してくれた方の中から、印象的な方に素敵なプレゼントを贈呈するよ！

～12 個のお題～



モニュメント：奇跡の一本松後継樹



防災のポイント

東日本大震災の津波で流されずに残った松の木。東山動植物園には、その遺伝子を受け継ぐ「奇跡の一本松の後継樹」が展示されています。東日本大震災から 10 年の節目に後継樹を撮影して、東日本大震災がどんな災害だったのか、南海トラフ巨大地震とはどんな地震なのかを考えてみましょう。※撮影するには、東山動植物園に入園する必要があります。入園等の詳細に関しては、東山動植物園のホームページをご覧ください。



地震の揺れ対策：家具のレイアウトの工夫



防災のポイント

家具レイアウトの工夫は、以下の内容が大切です。
寝室に家具を置かないようにする・家具が就寝位置に倒れてこない向きにする・出入口を塞がない向きにする・家具の中の物は、重いものを下に収納することで重心を低くし、転倒しづらくする・家具等の移動や転倒、収納物の散乱などにより避難経路をふさがないようにすることが大切です。



地震の揺れ対策：家具転倒防止対策



防災のポイント

阪神・淡路大震災では、死者の約 8 割が家屋の倒壊や家具の転倒による圧迫死・窒息死でした。自宅の家具転倒防止対策を行うことで、地震発生時に命を守ることができるだけでなく、在宅避難ができる安全な環境づくりの準備にもつながります。地震に見舞われたときに後悔しないように、寝室を優先に家具の転倒防止対策をしておきましょう。



地震火災対策：自宅のブレーカー



防災のポイント

阪神淡路大震災で特定された火災のうち、約 6 割が電気による火災でした。大地震が発生したら、停電中は電気機器のスイッチを切る、電源プラグを外すことはもちろんですが、通電火災を防ぐために最も有効なのは、「ブレーカーを落とす」ことです。この機会に、ご自宅のブレーカーの確認をしておきましょう。また、感震ブレーカーの設置もとても有効です。

みんなで繋ぐ！～ナゴヤソナエルアートキャンペーン～に参加しよう！

キャンペーン期間：2021年10月28日（木）10:00～11月14日（日）23:59



地震火災対策：住宅用火災警報器の確認



防災のポイント

地震によって万が一、火災が発生しても早期発見し、初期消火を行うことが大切です。火災早期発見のため、住宅用火災報知器が設置してあるか確認しましょう。名古屋市の火災予防条例では、住宅用火災警報器は台所・寝室（普段寝ている場所）や、寝室が2階以上にある場合は、階段にも設置が必要です。住宅用火災警報器が劣化すると火災を感知しなくなることがあるので、10年を目安に交換を薦めています。この機会に、紐を引いたり、ボタンを押して住宅用火災警報器が正常に作動するか点検を実施してみてください。



地震火災対策：コンロの確認・ガスの遮断



防災のポイント

地震が発生した場合に、安全を確保の上、火の元が確認できるようにしておきましょう。火事を起こさない・起きても小さなうちに消すことが重要です。消火器具を準備しておくことも大切です。



避難：指定緊急避難場所



防災のポイント

大規模地震が発生した場合は、緊急に避難しなければならない状況になることがあります。指定緊急避難場所は、「命を守るため、災害の危険からまず逃げるための場所」です。自宅にとどまると、命を守れない場合など、被害が発生するおそれがあり、急いで避難することが必要な場合は、災害ごとに適した指定緊急避難場所に緊急避難します。お住まいの行政区・学区にかかわらず、どなたでも最寄りの施設に避難することができるので、場所を確認しておきましょう。指定緊急避難場所には、写真のような標識があります。



避難：指定避難所



防災のポイント

指定避難所は、自宅が被災して帰宅できない場合、一定期間、避難生活を送るための場所です。災害により、指定緊急避難場所に緊急避難した後、災害の危険性がなくなったら、指定避難所に避難します。指定避難所も、お住まいの行政区・学区にかかわらず、どなたでも最寄りの施設に避難することができますので、場所を確認しておきましょう。指定避難所には、写真のような標識があります。

みんなで繋ぐ！～ナゴヤソナエルアートキャンペーン～に参加しよう！

キャンペーン期間：2021年10月28日（木）10:00～11月14日（日）23:59



避難：津波避難ビル



防災のポイント

大災害が発生した場合、名古屋市沿岸部では最高津波水位は3.6メートルになると予測されています。地震発生後、伊勢・三河湾に津波警報や大津波警報が発表された場合、すぐに津波の来ない高台まで逃げる必要があります。しかし、津波の来ない高台に行きたいけれども時間がないという場合や、近くに高台がないという場合には、一時的な避難場所である津波避難ビルに逃げて下さい。津波避難ビルには、写真のような標識があります。



事前の備え：非常持ち出し品



防災のポイント

大災害により、道路の渋滞や寸断で食料等の配送が困難な場合や断水、生活拠点の被災により食料や飲料水が不足します。いざ避難するときに避難生活に必要なものをまとめておきましょう。3日分の備えを準備することが推奨されています。



事前の備え：備蓄品



防災のポイント

大規模な災害が発生した場合、ライフラインが止まってしまう可能性があります。ライフラインが止まっても、自力で生活できるように普段から食料や飲料水、日用品などを備蓄しておくことが大切です。日頃からの備蓄として、7日分程度の食料や飲料水、生活必需品を備蓄しましょう。



事前の備え：ハザードマップの確認



防災のポイント

ハザードマップは、災害による被害の軽減や防災対策を目的に、被害が想定されるエリアや避難場所などを表示した地図のことです。ご自宅やお住まいの地域にどのような災害リスクがあるのか、どこが避難場所なのかを調べてみましょう。名古屋には、「あなたの街の地震ハザードマップ」「あなたの街の津波ハザードマップ」「あなたの街の洪水・内水ハザードマップ」の3つのハザードマップがあります。